

(様式第4号)

## 調査研究完了報告書

調査研究課題	茨城県の感染症発生時における検査体制の確立に関する試験研究
研究期間	平成22年度～23年度 2年間
目的	インフルエンザウイルス検査において、将来使用可能な種の血球を検索し、候補を選定することで、検査の確実性の担保に貢献させる。
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ブタ、ガチョウ及びラットの赤血球がヒトインフルエンザウイルスの検査（HA 試験及び HI 試験）に使用出来るか検討したところ、ブタ及びガチョウの2種については使用可能であることがわかった。特にブタの血液は安価かつ安定的に供給が可能であることから、有力な候補であると考えられる。</li><li>・ シアロ糖鎖レセプターについてフローサイトメーター及び HPLC 等で解析した結果、ブタの赤血球ではシアル酸の分子種はグリコリルノイラミン酸（Neu5Gc）が多く存在すること、ガチョウでは<math>\alpha</math>2-6 結合アセチルノイラミン酸（Neu5Ac）、ラットでは<math>\alpha</math>2-3 結合 Neu5Ac が多く発現していることがわかった。</li></ul>
成果の普及・活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学会発表や年報・論文発表により、成果の普及を図る。</li><li>・ 必要に応じて関係機関に情報提供を行い、周知を図る。</li></ul>
残された課題・問題点	